

骨髄採取キット（バクスター社）欠品問題について

第 5 報

2009, 1, 23、

日本造血細胞移植学会理事会

患者さん・患者さんご家族、ドナーさん・ドナーさんご家族、
その他関係各位並びに学会会員の皆様へ

“骨髄採取キット（バクスター社）の欠品問題”につきましてその後の経過のご報告とお願いをいたしたいと思っております。本件につきまして初めて当ホームページをご覧の方は第一報から第四報も併せてご覧ください。又、骨髄移植推進財団のHP：<http://www.jmdp.or.jp/>もご参照ください。

1. 現在バクスター社が採取施設の注文に応じすぐには供給できるキットは約 70 個（卸所有分を含む、バクスター社調べ、施設納品済分は現在骨髄移植推進財団が調査中）です。即ち今は未だ欠品しているわけではありませんので、血縁、非血縁を問わず骨髄採取が確定いたしましたら従来通りバクスター社に注文して下さい。但し、採取日程に余裕がある依頼においては下記の代替品入荷まで待っていただくようお願いすることもありますことをご了解ください。
2. バイオアクセス社のボーンマロウコレクションシステムは 600 個我が国用に押さえてあります。今正式注文を誰がどのようにするかを検討中であり（ここ 1～2 日で確定予定）、それが決まり次第発注、最初の 160 キットは 2 月初めには日本へ到着する予定です。それを必要に応じて移植施設へ配分・使用する仕組みは現在検討中です。
3. 各施設でそれを使用するに当たり、患者さん、ドナーさん、各施設の費用上の負担が発生することの無いよう、又施設においては作業上の負担も極少であるような仕組みを厚生労働省複数局、骨髄移植推進財団等とともに検討中です。学会はこれらに加え当初にお約束した、骨髄採取に一例、一日たりとも遅滞が生じないようにするため、学会が考えた医師個人購入に加え、治験としての使用、高度医療としての使用等の可能性を当局より示された時、それらいずれの選択肢も取り得るよう対策を考えてまいりました。しかしこのことは学会がこれらの選択肢に同意したわけではないことをここに明言しておきます（地震対策をすることは、地震に来てほしいわけではないことと同じように）。そして当初は視野に入っていた“治験”、“高度医療”といった仕組みの利用は時間的に見て困難になりつつあり、本医療機器に対する“迅速な審査と承認”がほとんど唯一残された解決策であろうと考えます。

4. あと数日のうちに多くのことが確定すると思われませんが、表記の方々に不安が広がっていますので現状をご報告いたしました。患者さん支援ボランティアの方々の中では、本件に関する要望書提出のための署名活動が行われています。一部に“学会はこうした署名活動に反対している”との噂が流れているとのことですが、これは完全に誤情報ですのでここに否定をしておきます。患者さん方のこうした動きは本件の解決のためきわめて大きな力になることを学会は十分認識しております(例えば骨髄バンクや臍帯血バンクがどのような人たちの力で造られたかはほとんどの学会員が知っています)。本学会といたしましては学会の立場から今後とも患者さん方と協力して問題解決に向け努力いたします。今も尚署名は続いていますので、ここにそのHPを紹介しておきます。

<http://spreadsheets.google.com/viewform?key=pqieimcJLRy0uIomKE4-eZw>

以上、本件に関わる現状報告とお願いをもって第五報といたします。